



図書室からのお知らせ～5月～

早いもので新学期から1ヵ月が過ぎました。光明の生活には慣れましたか？
GWが終わったら今月は中間試験です。試験前の放課後は年間で最も多くの生徒が図書室を利用します。
自習用の机もありますので、ぜひ一度きてください。

◆2026年度の図書委員会の先生のおすすめ本を紹介します◆

今年度も3名の先生が図書委員会の担当になりました。一年間よろしくお願いします。

3年 地歴公民科 高橋先生

「方舟」著:夕木 春央 講談社

「^{はこぶね}方舟」は二度、読まなければならない!?

本書は地下建築のクローズドサークル。事件の真相は!?
クローズドサークル(閉鎖空間ミステリー)の最高峰、
アガサ・クリスティー作「そして誰もいなくなった」と同じよ
うに読後、読み直さずにはいられない・・・!
犯人発覚後も油断するな(読めばわかる)
2025年売れた本1位、週刊文春ミステリーベスト10。
本書のラスト、エピローグは、誰にも言わないでください。

三冊とも図書室にあります！
手に取って下さい。



1年 英語科 中川先生

「君たちはどう生きるか」

著:吉野源三郎 ポプラ社

私のおすすめ本は吉野源三郎作「君たちはどう生きるか」です。同じタイトルのジブリ映画が出たのがきっかけで読みましたが、以前からよく学生に向けておすすめされている本です。中学2年生の主人公コペル君が日常の出来事や叔父さんの話を通して成長していく内容になっています。戦前に書かれた本ですが読みやすく、今も昔も変わらないテーマである貧困、いじめ、勇気、学問に対して人としてどう向き合うべきなのかを考えさせられる本です。読んでみると歴史や化学、物理学などの教養が身についたり、当たり前だと思っていることについて、自分の頭で考えることの大切さが分かるのがおすすめのポイントです。

2年 国語科 井出先生

「花ざかりの森・憂国」

著:三島由紀夫 新潮社

日本を代表する作家“三島由紀夫”の初期から代表作までを収めた作品集です。表題作「花ざかりの森」は、作者が10代の頃に書いた作品で、美しさや青春の感覚を繊細な言葉で描いています。
一方、「憂国」は、歴史的イベントである二・二六事件を背景に愛・忠義・死という重いテーマを描いた短編小説です。

●おすすめポイント

- ・日本文学の美しい表現
- ・三島由紀夫の文章は、情景や心情をとて美しく表現しています。言葉の選び方やリズムに注目して読むと、日本語の豊かさを感じられます。
- ・短編なので読みやすい。長編小説に比べてページ数が少なく、文学作品に挑戦してみたい高校生にも読みやすい作品です。

●テーマについて考えさせられる

「なぜ人は信念を持つのか」「美しさとは何か」など、読んだあとに自分の考えを深めるきっかけとなります。

●こんな人におすすめ

- ・日本の純文学を読みたい人
- ・言葉や文章の美しさを味わいたい人
- ・短い作品で深く考える読書をしてみたい人

●読むときのポイント

「憂国」は歴史的背景や価値観が現代とは異なる部分もあります。そのため、当時の時代背景を想像しながら読むと理解が深まります。



5月の新着雑誌



新着本について
皆さんからのリクエストで注文していますので希望する本がありましたら教えてください。



<KOMAのお薦め>

「テレビが終わる日」 著:今道琢也 新潮新書

皆さんはテレビを見ますか？こたえは「ノー」でしょう。私はテレビが「大好きでした。」昔は、生徒と「昨日あれ見た？」と盛り上がったものでした。しかし、今の現状では朝のワイドショーから夜のニュースまで各局が同じ内容の繰り返しです。コンプライアンスのもと台本に書かれているセリフを言わなくてはならないのでしょうか。桜の開花は、ニュースのトップに持ってくるほど大事でしょうか？「石油が足りない→物価高になっている!!」は、朝から報道していますが、本質の「戦争」のことは夜のBSニュースで報道するくらいだったりです。現在は「テレビが、つまらない」となってしまったようです。

しかし、大型テレビが欲しい。それはテレビがネット番組をみるための「箱」になってしまっているという現状があるようです。それが「テレビが終わる」という意味だそうです。



<教員のお薦め>

「傲慢と善良」

著:辻村 深月 朝日新聞出版

みなさんもあと何年か経てば結婚について真剣に考える時が来るでしょう。楽しみだけど、この人って決めるのは大変そうと考える人もいますでしょう。この本はそんなことを考える際にいろいろヒントになるでしょう。結婚って大変だ、と引く人もいるかも。でも一読の価値はあります。

D先生



順次、書架の紹介をしています。今月は書架46番「戦争・SDGs」です

4年前には無かった戦争関連の本が残念ながら増えてしまいました。ウクライナ戦争の本です。当時、平和を願って、ウクライナの花「ひまわり」の絵を描いてくれた生徒たちは、すでに卒業していきました。しかし未だこの戦争は終わっていません。そして新たに次々と戦争が起きています。「核」や「Jアラート」の本も増えてしまいました。1日でも早く平和が訪れることを図書室から願っています。



「 今月の作家 」

■朝井リョウ

1989年生まれの36歳 小説家(現在、テレビ・ラジオ出演多数)

著 書

「桐島、部活やめるってよ」「何者」(直木賞受賞)「正欲」(映画化)

「イン・ザ・メガチャーチ」(2026年本屋大賞受賞)

この「イン・ザ・メガチャーチ」は「推し」の「ファン」の活動によって生まれる経済を描いています。この状況をファンダム経済といいます。「今の時代、人を動かすものは何なのか」に迫った作品だと言われています。

推し活経験者は、自分のことを描かれているようで「ドキッ」としてしまうそうです。本書は現在注文中です。

学園にご来校の皆さま、ぜひ図書室へお立ち寄りください。

